

教えて! 市立病院



【今月のドクター】

眼科医員
山口 万里奈 医師

緑内障は、眼圧が高くなることで視神経が障害され、視野が欠ける病気です。日本の失明原因の第1位で、40歳以上の20人に1人、60歳以上の10人に1人の割合で発症します。緑内障になりやすい人の特徴として、血縁者が緑内障・女性・冷え性・偏頭痛・睡眠時無呼吸症候群・喫煙・高血圧・

〈第115回〉 緑内障りよくないしやうについて

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

糖尿病などが挙げられます。初期には無症状のため、視野が欠けてから受診する人がいます。欠けてしまった視野は、神経節細胞が既にダメージを受けており、治療を行っても回復することはありません。そのために、緑内障は早期発見・早期治療が大切です。

眼科外来を受診し、視力検査・眼底検査・光干渉断層計（OCT）検査・視野検査などにより緑内障と診断されます。治療は、点眼薬で眼圧を下げるのが基本です。3か月から半年ごとに通院し、OCT検査や視野検査により、病気の進行を診ていきます。複数の点眼薬

を使っても眼圧が下がらない場合や、視野欠損の進行が速い場合には、手術になることもあります。

毎年3月上旬には、世界緑内障週間という緑内障啓発のための国際的なイベントが行われています。「ライトアップ in グリーン運動」により、各地のランドマークや医療施設をグリーンにライトアップし、緑内障の早期発見と継続治療を呼びかける活動です。人間ドックや検診で視神経乳頭陥凹拡大と書かれたことのある人は、緑内障の疑いがあるため、無症状でも早めの受診をお勧めします。40歳以上の人は、定期的に眼科受診をしましょう。